

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センターひびお (児童発達支援・放課後デイサービス)		公表日		2026年 3月 16日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	✓		・遊ぶスペースと、訓練を行うスペースはその部屋、マット等で区切っている。 ・スペースには十分余裕がある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	✓		・利用者数に合わせて職員配置を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	✓		・大人が使用するスペース（キッチン、事務作業机等）はベビーサークルにて区切り、子どもが入らないようにしている。 ・スロープやエレベーターも完備している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	✓		・朝・夕に清掃を行い清潔を保っている。消毒は適宜行なっている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	✓		・屋内外ともに十分なスペースがあり、集団や個別支援、リハビリなど目的や人数によって使い分けられている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	✓		・職員全てに周知できるよう時間調整を行い、ミーティングを開催している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		・アンケート調査の結果については、全職員で共有している。 ・課題については今後どうすればよいかを議論し、改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓		・対応、支援内容は共有し、より良い支援が出来るように努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		✓	・現在、第三者委員会は設けていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	✓		・職員のスキルアップを図るために必要な研修があれば、案内を回覧している。 ・法令に定められた研修については年間スケジュールに組み込み実施している。 ・ホームページにて公表している。	・職員のスキルアップを図るために必要な研修の案内を行い、参加を促していく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	✓			・適宜内容の見直しを行い、より利用者のニーズに対応できるものにしていきたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	✓		・最長半年に一回は評価を行い、保護者の意見をふまえ、計画の見直しを行っている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓		・計画の作成や評価には職種を問わずに職員同士での意見交換を行っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	✓		・計画を基に訓練内容のチェック表を作っており、日々訓練を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	✓		・知能検査、発達検査、言語検査等フォーマルなアセスメントを行った場合は、結果を保護者と確認し共有している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	✓		・5領域 ・保護者の方がご家庭等で取り組める課題を提案していくようにしています。また、ご希望に応じて園訪問などを実施しています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓		・支援計画を立てる時に、様々な職種の移意見を取り入れるようにしている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓		・朝の会にて様々な歌をうたったり、季節の行事を取り入れた個別・集団活動を行っている。 ・様々な楽器に触れ気持ちの安定や他者とのコミュニケーションを楽しむことができる音楽療法を新たに取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	✓		・こどもの特性を把握し、訓練内容や訓練場所を考えている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓		・朝のミーティング時に、その日のスケジュールの確認を行い、担当者が誰であるかの確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	✓		・送迎時間等の関係で打合せは出来づらい場合もあるが、必要に応じて行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓		・サービス記録にその日の活動や、訓練内容を記載している。また、月末には内容を見直し、来月の訓練に役立つようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓		・最長半年に1回モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓		・各担当者が参加している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	✓		・発達支援計画の内容を共有し、目標を明確にしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓		・保育所等訪問支援などを行い、必要な支援内容の情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	✓			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	✓			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	✓		・marshe開催により、利用者や従業員の兄弟姉妹との交流する機会を設けている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓		・定期的に家庭連携(面談)を行ったり、送迎の際や、サービス記録を使って保護者と共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	✓		・必要に応じて、家庭内の療育に関して保護者に助言している。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓		・利用開始の際に説明を行なっている。	・分かりやすい説明を心がけたい。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓		・作成時、更新時には面談を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	✓		・説明をした上でサインを頂いている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓		・子育てサポートや家族支援の制度を利用し、面談し助言や支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	✓		・保護者会は実施していないが、marshe開催により、利用者の親や兄弟姉妹との交流を促している。	
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓		・速やかにスタッフで情報を共有、検討し対応するようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	✓		・Instagramを発信している。また、保護者には1日1枚その日の様子がわかる画像を送信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓		・SNSへの写真の掲載許可等を頂いている。画像を撮る際は、他の子どもの映り込みに配慮している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓		・個々に合わせ、簡単な言葉に置き換えて使用する等の工夫をしている。 ・保護者とは送迎時などに利用日の確認やその日の状況等をお話している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	✓		・marshe開催により、地域住民とのふれ合いや情報発信の機会を設けている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓		・各マニュアル完備している。年間スケジュールに沿って訓練も実施している。	・保護者への周知が出来ていないことがあるので、今後は周知の徹底に努めたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		・BCPは策定している。訓練もテーマを決め毎月行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	✓		・定期受診後や、予防接種後は保護者より状況をお聞きしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓		・保護者とアレルギー有無の確認をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓		・安全計画を周知、危険と思われる箇所があれば情報共有を行い改善している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓		・必要な際はメールや記録にてお伝えしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓		・事案発生時には職員で共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓		・最低年1回は研修会を実施している。指針を作成し、職員に共有している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	✓		・指針を作成し、職員に共有している。	・必要な場合は十分な検討ののち、保護者への説明を行うとともに身体拘束の適正化に努める。	